

## JAたじまの主な事業の内容

# 信用事業

## JAの信用事業とは

貯金をはじめ、ご融資や為替など、いわゆる銀行業務といわれているものがJAの信用事業です。JA（農業協同組合）、県信連（信用農業協同組合連合会）、農林中金（農林中央金庫）の3段階の組織が緊密に結びつきながら「JAバンク」として各種金融サービスを提供しています。

JAたじまでは、地域の組合員・利用者の皆さまにとって、身近で便利な「農業・生活メインバンク」としてお選びいただけるよう、真心を込めたサービスで農業とくらしに貢献してまいります。

## 多様な商品とサービス

年金受給者の皆様には、グラウンド・ゴルフ大会や歌謡ショーなどの「年金友の会イベント」を実施するとともに、女性の皆さまを対象に、協賛店で様々な特典が受けられる「アミカ」を取り扱っております。また地域の子育てを応援するため、子ども手当てに対応した子育て支援定期積金「たじまキッズ」の取り扱いを行うなど、他の金融機関にない商品・サービスの提供に取り組んでいます。また、貸出金では、新築から購入、借り換えまで組合員・利用者のニーズにあった多様な住宅ローン商品を取り扱うとともに、定期的に休日のローン相談会を開催しています。その他マイカーローンや教育ローンなど、組合員・利用者の生活を支えるための商品も取り揃えています。また株式会社日本政策金融公庫をはじめとする政府系金融機関等の代理貸付も取り扱っています。

JAたじまが取り扱う主な商品については、支店の店頭もしくはホームページでご確認ください。なお、JAたじまの支店情報については、91ページに掲載しております。

The screenshot displays the JA Tajima website interface. At the top, there are navigation links for 'JAネットバンキング', 'マネーコミュニケーション', and 'ホームへ戻る'. Below this, a '住宅ローン相談会日程' section is visible. The main content area is divided into several columns. The first column lists '関連ページ' including 'JA共済', 'アミカ協賛店一覧', 'もしものときは?', and 'ライフアドバイザー'. The second column, titled 'ためる・ふやす', contains '総合口座', 'スーパー定期', '定期積金', '給与振込', and 'かひる'. The third column, titled 'アミカ', contains '大口定期' and '年金'. The bottom section features '住宅ローン', 'マイカーローン', and 'カードローン' with corresponding icons and brief descriptions.

JAたじまのホームページでは、取扱商品の詳細な情報がご確認いただけます。最新情報のRSS配信も行っていますので、ぜひご利用ください。

<http://www.ja-tajima.or.jp>

JAたじまのホームページは、こちらの検索からご覧いただけます。

JAたじま

# 共済事業

## 総合的な生活保障の普及に取り組んでいます

相互扶助の精神に基づき、組合員の方をはじめとした特定の方の生命や住宅、自動車などの財産を守るために行っている事業がJAの共済事業＝JA共済です。

JA共済は、一般の生命保険と損害保険の両分野の機能を併せ持ち、組合員・利用者の皆さまのニーズに応える幅広い保障ラインナップを備えています。それら幅広い商品を、専門知識を持つスタッフ「ライフアドバイザー60名（LA：共済普及専任担当者）」が中心となり、「ひと・いえ・くるま」の総合保障の普及につとめています。

自動車共済の交通事故処理については、事故処理の専門スタッフを管内4拠点（豊岡、温泉、八鹿、和田山）に配置し、高度な査定・交渉技術・現場急行サービスにより、加入者に満足いただける体制をとっています。また専門職員と顧問弁護士による、無料の交通事故相談も好評をいただいています。

## 災害における対応について

JA共済では、自然災害発生時には、系統組織と一体となった迅速な対応ができるよう体制を整えています。

平成23年3月に発生し、東日本の広域に甚大な被害を与えた東日本大震災では、平成23年4月時点の試算では、JA共済より、約7,300億円の共済金をお支払する見込みとなっております。

また、近年の但馬地区における自然災害については、平成16年10月の台風23号に続き、平成21年8月の兵庫県西・北部豪雨（台風9号）や、平成23年（1月～3月）の大雪による雪災がありました。これらの際には、JAたじまの職員が直ちに共済契約者世帯の被害調査を実施し、迅速に共済金をお支払いすることができました。

JA共済では、これからも、広域災害・自然災害の備えとして十分な力を発揮し、組合員・共済契約者に安心を提供できるようつとめてまいります。

なお、JAたじま管内における兵庫県西・北部豪雨、平成23年（1月～3月）の雪災、及び平成22年度の共済金支払実績は次のとおりです。

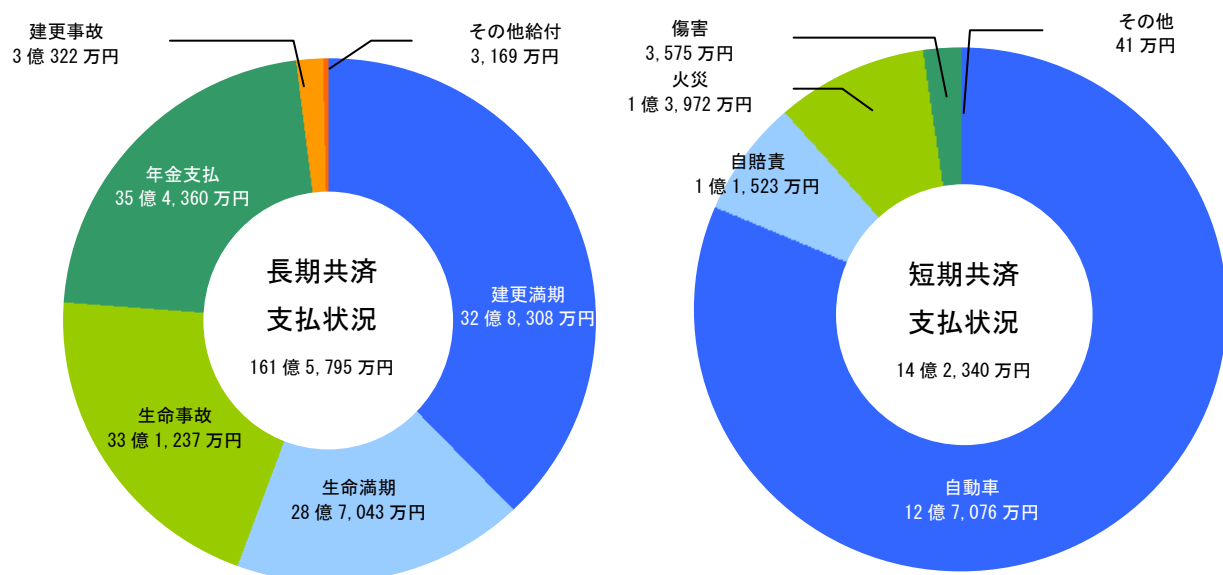
### ■平成21年の兵庫県西・北部豪雨における共済金支払実績

共済種類	市区町村名	支払件数	支払金額
建物更生共済	豊岡市	94件	1億800万円
	養父市	18件	1,470万円
	朝来市	66件	1億600万円
自動車共済	3市合計	47件	3,000万円

### ■平成23年（1月～3月）の大雪による雪災における共済金支払実績

共済種類	市区町村名	支払件数	支払金額
建物更生共済	たじま全域	208件	1億4,300万円

## ■平成 22 年度共済金支払実績



## JA 共済の安心・安全度

JA 共済の契約は、JA たじまと JA 全共連（全国共済農業協同組合連合会）が共同でお引き受けしています。JA たじまでは JA 共済の窓口として、また JA 全共連は商品開発や資産運用業務・支払共済金にかかる準備金の積み立てなどを行っています。

JA 共済の「ひと・いえ・くるま」の保障は国内トップクラスの契約量（平成 22 年度の JA 共済全国実績は生命総合共済の契約件数：約 1,490 万件、建物更生共済の契約件数：約 1,109 万件、自動車共済の契約件数：約 846 万件）となっています。また JA 全共連における、ソルベンシーマージン比率（支払余力）は、平成 23 年 3 月末現在において 966.6% となっています。

JA 全共連では、総資産のうち、44 兆円余りの運用資産について、安定的な収益を確保できる国債などの公社債を中心に、安全・確実な運用を行っています。

また、大規模・広域災害を想定した異常危険準備金（災害などのリスクに備えて積立てる準備金）については、1 兆 8,000 億円を準備するとともに、海外への再保険の実施など、万が一の際の支払いには万全の準備を取っています。

## 営農・畜産事業

J Aたじまでは、生産者組織を中心にした営農振興を基本としています。その中で、新中期計画「Plan 2013」では、3カ年の方針に「但馬の農を活かした 持続可能な農業の展開」を掲げ、詳細な実践計画のもと、様々な活動に取り組んでいます。営農指導では、農業技術や農家経営、農産物販売などについて、農家への指導を行うとともに、但馬各地の生産者を作物別に組織化し、トレーサビリティに対応した資材の供給や、生産技術の向上をはかります。また、お米や特産物の積極的な販売や加工品の開発などによる但馬の農畜産物のブランド化をすすめるとともに、平成23年6月に開設したファーマーズマーケット「たじまんま」を地産地消活動の拠点として活かしていき、一層の営農振興をはかります。

### 自然環境と共生する農業をめざして

平成17年9月に豊岡市で放鳥されたコウノトリは、一度絶滅した野生動物を世界ではじめて復帰させた取り組みとして注目を集めました。



そして現在はコウノトリと共存していくため、各地で様々な取り組みが行われています。J Aたじまでは、コウノトリが生活していく環境を維持していくために、組合員が中心となって様々な環境創造型農業を行っています。特に「コウノトリ育むお米生産部会」では、休耕田のビオトープ化や冬季湛水を行うなど、環境に負荷の少ない農法「コウノトリ育む農法」に生産者が一丸になって取り組み、「コウノトリ育むお米」の生産を行っています。環境創造型農業で

生産されたお米は、京阪神地区を中心に高付加価値米として販売されています。

平成22年11月には、このような「コウノトリ育むお米」の取り組みが評価され、国、民間団体で構成する「グリーン購入ネットワーク」が主催する「第12回グリーン購入大賞」で環境大臣賞を受賞しました。

また、J Aたじまでは、農林水産省の示した条件やトレーサビリティの確保、環境負荷低減への取り組みなど、自主ルールに基づいて生産された農産物を「コウノトリの贈り物」ブランドとして出荷し、皆様の食卓に美味しさと安心をお届けしています。認定された生産物には「コウノトリの贈り物」ロゴマークを添付して出荷を行っています。

今後も生産者・関係団体と連携し、環境創造型農業の実践を行うとともに、各地への普及に取り組めます。

「コウノトリの贈り物」ロゴマーク



組合員が愛情を込めて育てた

J Aたじま認定農産物の名称です。

## 優良米の産地として

但馬の稲作では、コシヒカリを中心に、安全で高品質な米の生産につとめており、兵庫県内における優良産地として高く評価されています。平成22年度からは、新たに「ふるさと<sup>たじま</sup>米」「みかた棚田米」への取り組みを始めました。「ふるさと<sup>たじま</sup>米」への取り組みは、これまでの「JAたじま米」への取り組みと比べ、環境や生産者にとって、より「持続可能な稲作」を実現するための取り組みであり、消費者の皆様により美味しく、より安全に食べていただけるお米となっています。



また「みかた棚田米」は美方郡の美しい棚田を生かした米作りから生まれた、「地域を味わう」ことができるお米です。さらに、コープこうべとの間で契約栽培している「つちかおり米」をはじめ、「コウノトリ育むお米」「アイガモ栽培米」「ペーパーマルチ米」など環境に配慮した特色あるお米の生産・販売もすすめています。

また但馬は、古くから優良な酒米産地として評価されてきました。現在では、主に兵庫北錦・五百万石・フクノハナといった品種の契約栽培を行っています。特にフクノハナは、蔵元との結びつきから全量を、減農薬・減化学肥料栽培に転換しました。

お米の消費が落ち込む厳しい販売環境の中、買っていただけるお米づくりのため、栽培講習会・研修会を開催して品質の高位平準化につとめるとともに、但馬広域営農団地運営協議会等、関係機関と連携して試験圃・試作圃を設置し、地域の栽培環境に適した優良品種の導入を検討しています。

また、但馬の美味しいお米を有利に販売するため、販売活動の強化にも積極的に取り組んでいます。契約栽培により、安定した販売先を確保するとともに、生産から販売、流通までが連携した「商品づくり」を行うことで、消費者に安全・安心で美味しいお米をお届けしています。さらに一般米についても、栽培方法を均質化して、他産地よりも有利な販売をめざしています。



「ふるさと但馬米産地交流田」では、消費者や流通業者に、田植えや除草、収穫を体験してもらい、より深くお米や米作りを知ってもらいます。

## 地域の特性を活かした特産物づくり

管内の多くが中山間地域であり、小規模な圃場が分布するとともに、多様な栽培条件があるため、各地域の特色を活かした多彩な特産物づくりをすすめています。中でも、夏から秋にかけて収穫される夏秋ピーマンは近畿地方で一番の生産量を誇っており、JAたじまの基幹品目と位置づけ、さらなる生産の拡大に取り組んでいます。また、「岩津ねぎ」の関東への出荷を開始するなど、但馬発祥の農産物についても生産・消費の拡大に取り組んでいます。平成22年度からは、同じく但馬発祥の農産物である「朝倉さんしょ」について、産地拡大のため行政と一体となった取り組みをすすめています。この他にも、丹波黒大豆、キャベツ、ほうれんそう、だいこん、梨を主要品目に設定し、生産の維持・拡大や市場対応力の向上をめざしています。



但馬では約200戸の農家がピーマンの生産を行うことで、夏秋ピーマンの生産量が近畿一となっています。

## 特産物の様々な販売活動に取り組んでいます

但馬の多彩な特産物を、より多くの消費者にお届けするために、JAたじまでは様々な販売活動に取り組んでおります。インショップとして「農協の八百屋さん」を展開することで、多くの消費者に新鮮で安全・安心な野菜をお届けしています。また販売と同時に生産者の生涯現役を応援するために、朝市（直売所）を各地で開催しています。他の取り組みとして、但馬の特産品である「ピーマン」や、「朝倉さんしょ」を様々な形で味わってもらうよう、加工品の開発も行っています。



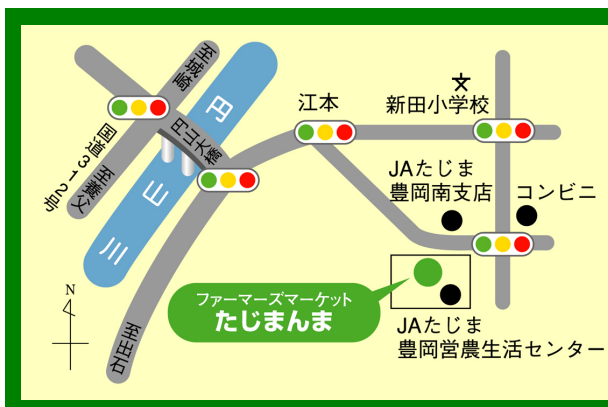
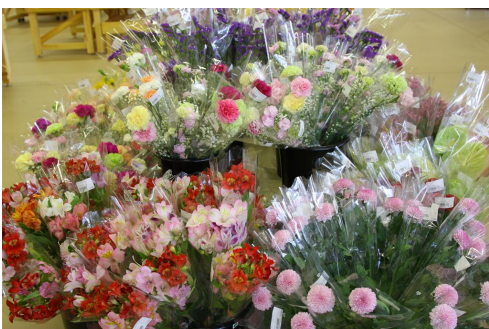
関係機関と連携し、「朝倉さんしょ」の加工品開発など、特産物のブランド化をすすめています。

## 「ファーマーズマーケット「たじまんま」の開設

平成23年6月17日、JAたじまはファーマーズマーケット「たじまんま」をオープンしました。

「たじまんま」は、毎日、但馬で育った新鮮な野菜や花、特産物を活かした加工品などが生産者の手によって持ち込まれる大きな直売所です。また、「たじまんま」では、但馬各地の環境を活かして作られたお米や、日本を代表する牛肉「但馬牛」もお求めいただけます。それぞれ「たじまんま」内に店舗を持つ、専門店「地米屋」「温泉 肉の店（豊岡店）」で取り扱っております。

店舗名の「たじまんま」には、「但馬の大地で採れた特産をまるのまんま、そのまんま取り扱う」という意味が込められています。「たじまんま」では、生産者が丹精込めて作った安全で安心な農産物を、毎日、地元の消費者の皆様にお届けします。生産者にとっては作る喜び、消費者にとっては安全安心な農産物を食べる喜びを感じてもらい、農業だけでなく、但馬全体がさらに元気になることをめざしています。また、JAたじまでは、この施設をとおして、但馬の営農振興をはかるとともに、農を通じて生産者と消費者の交流の場、但馬の農業の情報発信の場づくりを行います。



営業時間 : 午前9時から午後6時まで  
 定休日 : 毎週火曜日（祝日の場合は営業）  
 年末年始  
 駐車可能台数 : 110台  
 売り場面積 : 約700㎡  
 場所 : 兵庫県豊岡市八社宮490-3  
 電話・FAX : 0796-22-0300/0796-22-0611

## 名牛「但馬牛」の産地としての責任と誇り

日本が誇る名牛「但馬牛」は、優れた伝統と血統を持っています。その起源は古く、平安時代に編纂された「続日本書紀」ですでに「耕運、輓用、食用に適す」と紹介され、古来より優秀な血統として認められています。その伝統を守り、他府県牛との交配を避けながら改良を重ねた牛が、現在の「但馬牛」となっています。

古くから但馬で農耕用として飼育されてきた「但馬牛」は、肉質のすばらしさにより「神戸牛」・「松阪牛」などの素牛として全国的に知られています。「但馬牛」の特徴として

- ① 資質が抜群によいこと。
- ② 遺伝力が非常に強いこと。
- ③ 肉質、肉の歩留まりがよいこと。
- ④ 長命連産で飼料の利用性がよいこと。

などがあげられます。

そのような中、平成 19 年に、JA たじまが兵庫県内の関係機関を代表して申請した「但馬牛（たじまうし）」という商標が「地域団体商標」として登録されました。「地域団体商標制度」とは、地域ブランドを適切に保護することで、事業者の信頼の維持と産業競争性の強化、地域経済の活性化を支援する制度です。登録された「但馬牛（たじまうし）」とは、生きた牛を対象としたもので、「兵庫県産主に但馬地方産の和牛」としています。

JA たじまでは、この地域ブランドとなった「但馬牛（たじまうし）」の血統を守っていくために力を尽くすとともに、今まで以上の増頭振興に取り組み、「但馬牛」の名声向上につとめます。

## 日本有数の家畜市場「但馬家畜市場」

昭和 48 年に開設された「但馬家畜市場」（養父市）は、平成 19 年に湯村家畜市場と統合され、但馬地域としては唯一の家畜市場となりました。子牛市は 6・8 月を除く毎月開催されており、平成 22 年度は年間で 3,121 頭が取り扱われました。購買者は県内からだけでなく、松阪牛（三重県）「近江牛（滋賀県）」などの素牛を求める、他県からの購買者の方も来場します。

指定交配による但馬牛の多様な血統の維持につとめ、購買者の好む牛づくりにつとめてまいりました。その結果、但馬家畜市場では、但馬牛の優秀な血統と、産地としての取り組みが評価され、家畜市場別和牛子牛平均価格において、平成 20 年、21 年と 2 年連続で 1 位となりました。



但馬家畜市場では、活気に満ちたセリ市が開催され、平成 22 年度の子牛価格は全国トップクラスを維持しました。

# 生活文化・高齢者福祉事業

## 生活文化活動

女性会を中心に、史跡訪問教室、大正琴や生け花、着付けなどのカルチャースクールが自主的な活動として行なわれています。JAたじまでは、組合員のグループ活動を積極的に支援し、組合員の仲間づくりや生きがいつくりに取り組んでいます。

また、自治体など関係機関と連携して「町ぐるみ健診」・「骨粗しょう症健診」を実施し、参加の呼びかけと事後指導を実施している他、料理教室での食生活改善など健康管理活動にも取り組んでいます。

## 高齢者福祉活動

JAたじまでは豊岡・浜坂・八鹿・和田山の4つの介護センターと1つのデイサービスセンターで高齢者福祉事業を行っています。また、高齢者福祉事業基本計画において5つの活動方針を掲げ、より質の高いサービスの提供と、安心してご利用いただける事業所をめざして「訪問介護事業（ホームヘルパー）」「居宅介護支援事業（ケアマネジャー）」「通所介護事業（デイサービス）」の介護保険事業・介護予防事業に取り組んでいます。

各介護センターでは、利用者の様々なニーズに対応できるように、JA独自サービスとして「高齢者生活支援事業」を展開しております。また、介護保険対象外のサービスにも柔軟に対応することにより、利用者の利便性向上につとめています。



豊岡市内のデイサービスセンターで、運営受託を受けて、通所介護事業を行っています。

## LPガス・生活購買・旅行事業など

### 保安の充実による安全と安心・信頼の提供（LPガス）

地域の大切なライフラインのひとつとして、安全・安心・信頼の負託に応えられるサービスの提供につとめています。

24時間保安体制をとって緊急対応を行うとともに、バルク供給システムなども導入し、安定的なガスの供給につとめています。

### 暮らしをもっと豊かにする、JAの生活購買

食品や日用雑貨・耐久消費財など、JAの組合員が、よりよい暮らしに必要なものを、組合員が直接選んで購入する事業がJAの生活購買事業です。安全・安心な商品を選別し、使用の際の商品研修等を実施しながら行われる共同購入のほかに、女性会が中心となって旬の果物などの産地直接購入なども行っています。

### 旅行事業

JAたじまの旅行事業は、農村や農家の旅行需要の増加に対応して開始されました。組合員や利用者のニーズに応えるため、広報活動を通して最新の旅行・観光情報の提供につとめています。また、近年では、但馬の食材を旅先で味わう「持参地消」旅行の提案や、都市と農村を結ぶグリーンツーリズムなどにも取り組んでいます。

### イベント活動

地域とのふれあいと新しい絆づくりを求めて、「但馬まるごと感動市」などの大規模イベントに参加するとともに、但馬各地のイベントにも積極的に参加し、地域とのふれあいにつとめています。

また、ゴルフ・囲碁大会などの各種イベントを開催し、組合員や地域のみなさまに、JAを通じ、幅広い世代間で楽しく交流いただいています。

## 広報活動

組合員との「良い関係づくり」を目的とした広報誌「リレーション」を毎月発行しています。また、広く地域の方にも、但馬の農業やJAのことを知ってもらうため、季刊コミュニティ紙



「Agreason(アグリーズン)」を発行しています。このほかにも、家の光や新聞各紙・TV局への話題提供などにもつとめるとともに、ホームページを開設して、JAたじまの情報を発信しています。



JAたじまのホームページでは、但馬の農業の最新情報を発信しています。最新情報のRSS配信も行っていますので、ぜひご利用ください。

<http://www.ja-tajima.or.jp>

JAたじまのホームページは、こちらの検索からもご覧いただけます。



## 食農活動

但馬の農業のファンを増やすため、平成21年度より、但馬の小学生を対象とした食農体験教室「あぐりキッズスクール」を開校しています。会場ごとに地域の特色を活かした農産物による農業体験や、収穫した農産物の調理を通して、食と農についての理解を深めます。また、食の大切さを伝え、但馬の人たちの健康な心と体づくりを応援するため、但馬全域を対象としたスポーツ大会の支援を行っています。この他にも、管内の小中学校でのピーマン栽培体験教室などの食農活動に取り組んでいます。



平成23年度のあぐりキッズスクールは、出石、香住、和田山の3会場で開催し、合計100名を超える子どもたちが参加しています。月1回、全8回の開催で地域の特産品などの栽培に取り組めます。